

・パルテム技術協会 第6回定時総会

開催日 平成23年4月21日（水）午後5時より

開催場所 浜松町東京會館 39階「チェリールーム」



▲黙 祷



▲缶 会長挨拶

1. はじめに

3月11日東日本大震災に対する哀悼と早期復旧を祈念いたします。

当協会の復旧支援として

- ① 当会東北支部に見舞金100万円 用途、配分は支部に一任。
- ② 岩手・宮城・福島に本社のある会員の本年度年会費を免除 18万×12社=216万円
当協会員の被害状況は様々、社屋のほとんどを津波で流失した会員もあり。
- ③ 義援金150万円を日本赤十字に寄付。支部からの寄付金も協力要請しており、最終的には250～300万円程度の義援金を寄付。（協会員1社当たり1万円程度を目安）
- ④ 該当市町村の許可を得て被災地域のパルテム更生管路の追跡調査を実施予定。300万円を見込む。

以上の4点を本日の予算案に組み込みましたので、後ほどご審議していただきたい。

本部総会後の懇親会取りやめなどの経費節減、次年度繰越金取り崩しなどを原資としたい。

2. 更生市場の現状・今後の動向（農水・下水）

- ① 下水道・農業用水の市場規模は引き続き非常に大きいですが、平成22年度下水道更生市場全体の実績で見ると平成21年度492Kmに対して10%強の減少見込。右肩上がりが続けていた管更生も、民主党政権発足以降、公共工事見直しの影響を受けつつあるのかもしれない。
- ② 下水道管更生で中心的な都下水においては、低価格落札の継続と設計要員不足で平成22年度予算執行率は70%程度であったとの事。大阪市では過去最高の80億円規模で発注され、当協会員も受注に成功しています。
- ③ 当工法協会の実績は、延長ベースでは10%の減少（46.0Km→41.4km）の見込み。

PA協会の実績（単位Km）

年 度	H L		S Z		F R		全 体	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
H 2 0	10.93	58%増	30.39	42%増	3.04	4%減	44.36	41%増
H 2 1	9.52	13%減	32.08	6%増	4.23	38%増	45.99	4%増
H 2 2	7.49	21%減	30.83	5%減	3.01	29%減	41.33	10%減
累 計	389.23		304.29		23.16		716.61	

昨年度はすべての工法で実績延長ベースでは減少したが、芦森工業出荷金額ベースでは、HLは横ばい、SZは8%のアップ、フローリングは微減であり、全体的にはほぼ横ばい。協会の技術指導料もわずかな減少にとどまった。当協会の得意とする大口径での受注が進行しているためと考えられます。

- ④ 都下水では、本年度は発注増を見込む。大阪市では昨年度大量発注があったが、今年度は減少の見込。大阪市周辺都市での発注が開始されるので、これに期待しています。

農業用水分野では、ストックマネジメントによる発注増に期待。国・水資源の発注が盛んであった地域では下流域の県営事業が開始された所もあるようです。

3. 東日本大震災の影響

- ① 被災地では海岸地域の処理場の被害が大きく、この復旧に予算は優先頒布されると予想。管路については、本年度は調査を中心に計画が立てられ本格的な更生工事は緊急を除き、来年度以降と予想しております。
- ② 関東圏では浦安市等の液状化被害が甚大だが、下水は管路よりも人孔に被害が集中しているようです。
- ③ 公共工事は5%削減され、復旧費に廻ると予測。その後補正予算と考えております。
- ④ 耐震性実証のため、時期を見て自治体の許可を取り付け更生管路の追跡調査を実施。調査費を本年度予算に組み込んでおります。
- ⑤ 一方、被災を受けなかった自治体よりの発注増が期待される。
- ⑥ 特に当工法協会では、CIPP 分野では SZ・HL 工法が唯一地盤追従性が認められている。この性能を発注者に積極的に PR し、下水道管路の耐震性向上に寄与していきたい。

4. 品質確保協会を中心とした更生工法の規格基準の動向と J I S 化の動き

- ① 現在、日本下水道協会では管路更生に関する委員会が設置され、数年前より大都市を中心にモニタリングが実施されました。その結果を踏まえて、ガイドラインが作成される(当初は7月初旬発刊予定だったが、震災の影響で2~3カ月遅れる)見込みとなっております。
- ② 一方、管路更生については ISO 規格化されるが、その JIS 化に向けては国土交通省と経済産業省の共管で原案作成委員会が設置される。当初は3月末に第1回目が開催される予定であったが、これも今般の震災で遅れている。なお、設置後は約1.5年で JIS 化の見込みとなっております。
- ③ この JIS 化の際に芦森・積水など5社で共同研究している超音波・衝撃弾性波を活用した更生管の硬化確認および充填確認のシステムが本年3月に技術審査証明を取得しました。よって、硬化確認および充填確認を織り込んでいただく方向で検討中でございます。

5. パルテム工法の改良開発の近況と今後

- ① 時間短縮、臭気対策として材料の改良を進めている SZ-SH については、現場施工を踏まえて良いものになりつつあります。会員各社のご協力に感謝しております。
- ② 農水分野の大口径、長尺対応を引き続き推進中でございます。

- ③ 今後も会員各位の声に答えられる工法にすべく最善の努力を芦森とともに推進してまいります。

6. その他として

- ① 東日本大震災からの痛手からの復興に当協会としてできる範囲で最大限の努力をと考えております。
- ② 農業・下水道分野の管路更生の市場は大変多く、伸びる要素を持っており、会員各位のご協力を引き続き仰ぎたいと存じます。
- ③ 昨年度は皆様のご協力で35社の新規入会会社がございました。ご協力に感謝いたします。
本年度もさらなる協会拡大のため、新規協会の獲得ともどもにご協力を願いたいと存じます。

・支部総会開催

支部名	開催日	開催時間	会場
北海道	平成23年5月10日	17:00～	京王プラザホテル札幌
東北	平成23年5月31日	16:30～	パレス平安
関東	平成23年5月19日	16:00～	浜松町 東京會館
中部	平成23年6月2日	16:00～	名古屋ガーデンパレス
関西	平成23年5月23日	16:00～	新大阪ワントンホテル
中国・四国	平成23年6月6日	16:00～	メルパルク広島
九州	平成23年6月7日	16:00～	博多都ホテル

・会員数

正会員	250社
特別会員	2社
賛助会員	3社
合計	255社

以上